

2025年11月23日
11月第四主日礼拝式



「忘れないで」

1. 忘れないで いつもイエス様は
きみのことを みつめている
だからいつも 絶やさないで
胸の中の ほほえみを
2. だけどいつか 激しい嵐が
きみのほほえみ 吹き消すでしょ
だからいつも 離さないで
胸の中の みことばを

【次】

「忘れないで」

3. 忘れないで 悲しみの夜は
希望の朝に かわることを
だからすぐに とりもどして
いつものきみの ほほえみを

80 ほめたたえよ

ほめたたえよ 新しい歌で
ほめたたえよ 朝に夕に
義なる主に向かい 力ある限り
義なる主に向かい 力ある限り
ほめたたえよ 新しい歌で
ほめたたえよ 朝に夕に

新聖歌259番 「 聖いふみは教える 」

- 1 聖いふみは教える 神が人となられて
人のために救いの 道を成就(じょうじゅ)したこと
* わたしをも愛して 死なれたお方は
神の子のイエスさま ひとりだけだ
- 2 そんな愛を忘れて 道に逸(そ)れた わたしを
咎(とが)めだてもしないで 迎え入れてくださる
* (くりかえし)
- 3 神の前に行くとき 歌うひとつおぼえの
歌はイエスがわたしを 愛したもうそのこと
* (くりかえし) アーメン

使徒信条(しとしんじょう)

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
われはそのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりて宿(やど)り、処女(おとめ)マリヤより生まれ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、
三日目に死人のうちよりよみがえり、
天に昇り、全能の父なる神の右に座(ざ)したまえり。
かしこより来たりて生ける者と死にたる者とをさばきたまわん。
われは聖霊を信ず。
聖なる公同の教会、聖徒の交わり、
罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、
永遠(とこしえ)のいのちを信ず。

アーメン

新聖歌275番 「信仰こそ」

- 1 信仰こそ 旅路(たびじ)を導く杖(つえ)
弱きを強むる力なれや 心勇ましく旅を続けゆかん
この世のあやうき 恐るべしや
- 2 わが主をかしらと 仰ぎ見れば 力の泉は
わきて尽きず 恵み深き主の み傷 見まつれば
わずかに残る火 ふたたび燃(も)ゆ
- 3 主イエスの御跡(みあと)を たどり行けば
険しき山路(やまじ)も やすけき道
いかで迷うべき などて疲(つか)るべき
真直(ますぐ)に御神へ 近づき行かん 【次ページ】

新聖歌275番 「信仰こそ」

- 4 信仰をぞ わが身の杖(つえ)と頼(たの)まん
するどき剣(つるぎ)も 比(くら)ぶべしや
代々(よよ)の聖徒(せいと)らを 強く生かしたる
御霊(みたま)をわれにも 与えたまえ

アーメン

主の祈り

天にまします われらの父よ。

ねがわくは 御名をあがめさせたまえ。

御国(みくに)を来たらせたまえ。

御心(みこころ)の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらのにちようの糧(かて)を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者を、われらがゆるすごとく、

われらの罪をもゆるしたまえ。

われらをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国(くに)と力(ちから)と栄え(さかえ)とは、

限りなく 汝(なんじ)のものなればなり。

アーメン

新聖歌63番 父 御子 御霊の

ちち みこ みたまの

おお 御神(みかみ)に

ときわに 絶(た)えせず

御栄(みさか)え あれ

御栄(みさか)え あれ

アーメン